

# 週報

【 2025/12 第2例会 】

例会日:毎週金曜日

例会場:碧海信用金庫本店3F 安城市御幸本町15-1  
TEL:0566-75-8866 FAX:0566-74-5678

Email: anjo-rc19580206@katch.ne.jp

HP: http://www.anjo-rc.org

■創立日:S33年1月10日

## 第3232回例会

2025年12月12(金) 12:30~13:30

司会者:稻垣 礼子さん

ソング:「四つのテスト」

ニコボックス委員会:成田 孝則君

雑誌委員会:寺部 晓君

出席報告者:伊藤 昌悟君

全会員数	52名
------	-----

現在出席義務者数	37名
----------	-----

本日の出席人数	32名
---------	-----

内出席免除者の出席人数	9名
-------------	----

出席率	74.40%
-----	--------

**2025-26年度 : RIテーマ**

「UNITE FOR GOOD

よいことのために手を取り合おう」

**安城ロータリークラブ会長方針:**

「Team Anjo Rotary

～メンバー一致団結をして目標に向かって活動しよう～」

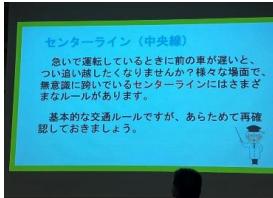
■会長:加藤 正人

■幹事:石川 徳重

■クラブ会報:永井 慎悟・荻須 篤

### ■ 会長報告

加藤 正人会長



### ■ 幹事報告

石川 徳重幹事

- 次年度理事メンバーの役職について報告いたします。次頁資料をご覧ください。
- 運転適性検査をまだ行っていない方は受けてください。
- 12/19→12/21(日)会員家族親睦例会に例会変更です。  
参加されます方は17:00受付ですのでお気を付けてお越しください。
- 12/26は、定款第7条第1節(d)により休会です。  
なお事務局12/26~1/4お休みです。  
緊急時は石川徳重幹事まで連絡お願いします。
- 1-3月の例会確認出欠表をお願いします。

### 【本日のセレモニー】

・ロータリーの友発表

### ◆ 本日の例会 年次総会

卓話担当 沢名 一樹君

テーマ「今後のホテル需要について」

※頂戴した原稿はそのまま掲載しています



### 今後のホテル需要について

ABホテル株式会社 代表取締役社長 沢名 一樹

現在の日本のホテル市場を取り巻く「インバウンド(訪日外国人)」と「国内ビジネス需要」の2つの側面から、現状と今後の展望についてお話しします。

まず、ホテル・旅館市場の全体像ですが、2024年度の市場規模予測は約5.5兆円に達する見込みです。これはコロナ禍前の水準を超え、過去最高レベルの活況を呈しています。

特にビジネスホテルの客室稼働率は堅調に推移しており、円安基調が続く為替相場の影響も追い風となって、海外からの注目度は依然として高い状態にあります。

皆様もニュース等でご存知の通り、世界的な旅行誌『コンデナスト・トラベラー』の読者投票において、日本は「世界で最も魅力的な国」の第1位に選出されました。

実際の数字にもそれは表れており、2025年9月の推計値では、訪日外客数は単月で約326万人、累計では過去最速で3,000万人を突破しました。特に、和歌山県の「熊野那智大社」がTIME誌の「世界の素晴らしい場所」に選ばれるなど、ゴールデンルート（東京・大阪・京都）以外の地方へも関心が広がりつつあります。インバウンドの内訳を見てみると、2025年9月時点のデータでは、国籍別シェアで中国が18.9%とトップを占めています。消費額ベースで見ても、中国は年間1.7兆円規模と非常に大きな存在感を示しています。しかし、ここで一点、直近の情勢について触れておく必要があります。今回のデータは9月時点のものですが、昨今の国際情勢や中国国内の経済状況等の影響を受け、12月以降、中国からの航空便の減便が予定されています。

これまで順調に回復してきた中国市場ですが、この減便の影響により、一時的な足踏みや数字の変動が起る可能性があります。統計データ上は好調に見えますが、現場の実感としては、今後の動向を慎重に注視する必要があると考えています。

一方で、台湾、米国、韓国など他国からの来訪は依然として強力であり、リスク分散されたポートフォリオとなっている点は日本の強みと言えるでしょう。また、訪日客の満足度は極めて高く、「必ずまた来たい」「来たい」と答える人が全体の9割を超えていることから、中長期的なファン作りは成功していると言えます。

次に、国内のビジネス需要に目を向けます。日本の人口は減少の一途をたどっていますが、それとは対照的に、企業の設備投資意欲は非常に旺盛です。

民間企業の設備投資額は、バブル期並みの100兆円台を回復し、今後はさらに135兆円、200兆円を目指すという目標も掲げられています。この投資の中心にあるのが「半導体」と「製造業の国内回帰」です。

北海道のRapidus（ラピダス）、熊本のTSMCをはじめ、岩手のキオクシア、三重のキオクシア・ウエスタンデジタルなど、日本列島の北から南まで、半導体関連の巨大工場の建設ラッシュが続いている。

私たちビジネスホテルにとって、こうした工場建設に伴う工事関係者の方々や、稼働後のビジネス出張者の需要は、インバウンドと並ぶもう一つの大きな柱です。AIの活用やDX化が進む製造現場においても、最終的に設備を動かし、メンテナンスをするのは「人」であり、そこに宿泊需要が生まれます。

現在のホテル需要は、世界的な評価を受けた「インバウンド観光」と、製造業の復活による「国内ビジネス需要」という、強力な2つのエンジンによって支えられています。

中国市場の減便という直近の不透明要素はあるものの、日本全体のポテンシャルは揺るぎないものと確信しております。我々ABホテルも、このまたとない機会を捉え、地域の皆様と共に成長してまいる所存です。

本日はご清聴ありがとうございました。